大阪大学の新たな挑戦：
社会ソリューションイニシアティブ（SSI）

夢はバラ色

堂　目　卓　生*

A New Challenge of Osaka University: Social Solution Initiative (SSI)

Key Words：Social Solution, Future Society, Life

1．SSIとは

社会ソリューションイニシアティブ（SSI）は、大阪大学の人文社会科学系部局が中心となって、理工系・医歯薬系など自然科学系の研究者と連携を図りながら、パブリックセクターや民間企業など、さまざまな社会のステークホルダーと協働しながら社会課題の発見と解決を進め、今から30年先、2050年を見据えて持続可能な共生社会を構想するシンクタンクです。2018年1月に大阪大学内に設置され、4月より本格的に始動しました。

2．SSIの理念

人類は、命をまもり、はぐくみ、つなぐために文明を発展させてきました。しかしながら、世界は、人口の増大とともに地球温暖化や環境破壊、天然資源の枯渇、食糧不足、格差の拡大など、地球規模の問題に見舞われています。問題を放置すれば、貧困、飢餓、伝染病、内乱、テロ、戦争、犯罪などが増大するでしょう。他方、日本は、少子高齢化や人口減少によって財政難や地方の衰退など、様々な問題に悩まされています。世界も日本も命が脅かされ、抑圧され、分断される危機の中にあるといえます。

こうした現状認識にもとづき、SSIは文明の原点に立ち返って「命」に注目し、命を「まもる」、「はぐくむ」、「つなぐ」という視点に立って社会課題の

図1　SSIの理念

解決に取り組みます。そして、持続可能な共生社会を「命を大切にし、一人一人が輝く社会」としてとらえ、その実現を目指します。

命を「まもる」とは、災害、伝染病、戦争、犯罪、飢餓、貧困などの脅威から、人間の命をまもることを意味します。この世に生まれたかけがえのない命を不本意な死によって中断させないこと。SSIは、これを「命を大切にする」ことの基本ととらえます。

命を「はぐくむ」とは、住環境の改善、子育ての支援、教育の充実、働き方の改善などを通じて、一人一人が潜在的に持っている能力を見出し、伸ばすことを意味します。自然環境を保護するなど、人間だけでなく、他の生きものの命をはぐくむことも含まれます。

人間は一人で生きていくことはできません。命をまもるためにも、はぐくむためにも、つながり合っていることが重要です。幸いなことに、人間には他の人の気持ちを自分のものとして感じる能力 ー「共感」ー が備わっています。命を「つなぐ」は、共

* Takuo DOME
1959年9月生まれ
京都大学大学院経済学研究科博士後期課程（1988年）
現在、大阪大学　総長特命補佐、社会ソリューションイニシアティブ長、大学院経済学研究科教授　経済学博士
経済学史・経済思想
TEL：06-6850-5211
FAX：06-6850-5256
E-mail：t-dome@econ.osaka-u.ac.jp

感によって人と人との絆を強め、拡げていくことを意味します。また、過去から現在、そして未来へと命をつなぐことも意味します。この視点から、SSIは、高齢化や少子化の対策、地域再生、ジェンダー平等、格差是正、障がい者の包摂などの社会課題に取り組みます。

命を「まもる」、「はぐくむ」、「つなぐ」という3つの視点とさまざまな社会課題の関係は、たとえば図1のように示すことができるでしょう。

これら3つの視点を表す円は交わっており、子育て支援や高齢者対策、障がい者の包摂のように、複数の円が重なる部分に位置づけられる社会課題もあります。また、同じ課題の解決に向けた取組でも、異なる視点に重点が置かれることも考えられます。

3．取組の進め方

SSIは、図2のように、3つのステップを螺旋的に繰り返しながら、取組を進めていきます。

図2　3ステップの取組

＜ステップ1＞　最初のステップとして、持続可能な共生社会とはどのような社会かを考え、その構想のもとで、解決しなくてはならない諸課題を発見し整理します。この段階から、研究者のみならず、社会のさまざまなステークホルダーとの協働を始めます。具体的な活動として、学内外の人びとが集ってあるべき将来の社会像について意見を出し合い、実現に向けた課題について話し合う「SSIサロン」を年数回開催します。

＜ステップ2＞　次に、発見・整理された課題ごとに「基幹プロジェクト」のチーム（PT）を作って、セミナーやワークショップを開催し、必要に応じてフィールドワークなども実施して研究を進めます。「基幹プロジェクト」とはSSIが主体となって進めるプロジェクトです。これ以外にも、SSIの理念に沿った様々なプロジェクトを「協力プロジェクト」として支援します。

基幹プロジェクトの各チームには2～3人の学内研究者がコアメンバーとなり、そのうち1人がプロジェクトリーダーになります。コアメンバーの他、学内外の研究機関、パブリックセクターや企業からもメンバーとして参加してもらい、10人～15人の規模のチームを作ります。プロジェクトの期間は原則として1年～3年です。

プロジェクトの進捗状況はホームページに随時掲載し、プロジェクト終了時には、関係機関への提言や報告、また実社会におけるアクションなど、課題解決のための多様な貢献につなげていきます。

＜ステップ3＞　SSIの各プロジェクトチームによる取組を横断した「SSIシンポジウム」を年1回開催し、持続可能な共生社会を実現するための新たな社会システムを考察し、提言します。また、1年間の取組をまとめ、社会に向けて発信するとともに、取組全体をバージョンアップするための基礎として「アニュアル・レポート」を作成します。このようにして更新された社会構想をもとに、解決すべきさらなる諸課題を発見します。つまりステップ1に戻って、新たなラウンドを始めます。

4．2018年度の活動

4月以降、ステップ1として、SSIサロンやSDGs関連の取組、共創DAYのブース出展などを実施しました。またステップ2として、各種のプロジェクトを立ち上げ、軌道に乗せました。ステップ3については、3月にシンポジウムを開催しました。各取組の概要は以下のとおりです。

(1)　SSIサロン

2018年度は、「SSIサロン」を5回開催しました。サロンは、大阪大学会館のSSI豊中ラウンジで午後6時から8時30分まで開催されましたが、毎回30名以上の方が参加してくださり、文系・理系、研究者・実務家などの垣根を越えて自由闊達な対話で盛

り上がり、あるべき将来の社会像とその実現に向けた課題に関し、多様な論点や価値観が提示されました。終わるのが9時を過ぎることもありました。各回のテーマは以下の通りです。

第1回「生と死と、命と ― 超高齢社会の多様性―」（6月25日）

第2回「科学技術と地域資源のコラボレーション ― 支え合いの仕組みを考える ―」（7月18日）

第3回「国家とは、人間とは ― 紛争解決は何をめざすのか」（9月20日）

第4回「科学技術と人間 ― 未来社会に向けた文理融合のあり方」（11月1日）

第5回「SDGsとどう向き合うか ― 30年後の社会を見据えて」（1月15日）

SSIサロンの風景

また、2019年3月19日には、大阪大学会館講堂において、「未来につなぐ命 ― SSIの理念と取組」というテーマでシンポジウムを開催しました。

(2) プロジェクト

SSIの活動の中核をなすのは「基幹プロジェクト」です。始動したばかりのため、SSIとして十分な支援ができなかったにも関わらず、プロジェクトリーダーから献身的な協力を得ることができ、社会課題を解決する本格的な取組を始めることができました。現在、以下の4つのプロジェクトが活動しています。

「地域資源とITによる減災・見守りシステムの構築」

「教育の効果測定研究」

「共生対話の構築」

「SDGs指標の改善を通じた環境サステナビリティの促進」

また、大阪大学の研究者がメンバーとして参画するプロジェクトのうち、以下の3つを「協力プロジェクト」として認定しました。

「地域住民の死生観と健康自律を支える超高齢社会創生のための文理融合プロジェクト」

「健康・医療の行動経済学的研究」

「アフリカの非正規市街地をフィールドとした持続型都市社会モデルの構築」

(3) ホームページの開設

SSIの理念や取組を社会に広く発信し、さまざまなステークホールダーと交流するため、ホームページを開設しました。http://www.ssi.osaka-u.ac.jp/

ホームページには、SSIの理念や取組方法、サロンの報告、プロジェクトの概要などを掲載しましたが、これらの他に、SSIの活動に関わる人々による社会課題や目指すべき社会についてのエッセイを「マンスリー・トピックス」として4月から毎月掲載しました。どの記事も、課題課題に向けた筆者の情熱と知恵で満たされており、読み応えのあるものばかりです。

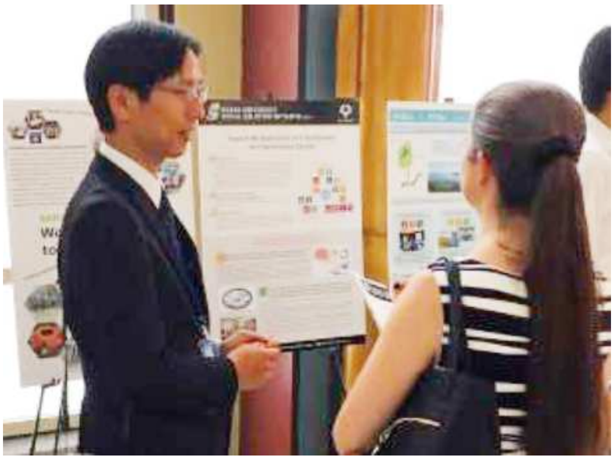
(4) SDGsに関する取組

SSIは、2015年に国連総会で採択された2030年までの「持続可能な開発目標」（SDGs）を「命を大切にし、一人一人が輝く社会」にいたるための重要な道標として位置づけ、SDGsに関連するプロジェクトを実施または支援します。SDGsが示す17

SDGsの位置づけ

のゴール、169のターゲットを、命を「まもる」、「はぐくむ」、「つなぐ」という視点に結びつけ、何のためのゴールやターゲットなのか、ゴールやターゲットの達成の先にどのような社会を構築するのかを考えていきます。

2018年は、関西SDGsプラットフォーム主催のシンポジウム（3月30日）、国連本部でのハイレベル政治フォーラムへのパネル出展（11月17日）、エコプロ2018へのパネル出展（12月6日～8日）など、SDGsに関する取組を進めました。



国連本部にパネルを出展

共創DAYのチラシ

(5) 共創DAY

11月17日にEXPOCITYで行われた「大阪大学共創DAY」にSSIも参加し、「みんなで30年後の社会を描こう」というテーマでブースを出しました。子どもたちを中心に、130人を超える方々が30年後の社会を絵にしてくれました。それらは、SSIのホームページで見ることができます。

http://www.ssi.osakau.ac.jp/activity/other/ssi_kyosoday2018/

どの絵も、私たちの目を開いてくれる柔軟な発想、胸を打つ心の温かさ清らかさに満ちており、SSIにとっての貴重な財産となりました。

5．今後に向けて

SSIは昨年の4月からハイペースで取組やイベントを進めてきました。それができたのも、SSIに関わる教員だけでなく、事務職員や学生のみなさん、そして学外の方々が、SSIの理念に賛同し、自分の中にある「善意」（goodwill）を持ち寄って協力してくれたからであり、30年後の社会を自分のこととして一緒に考え、一緒に活動してくれたからだと思います。

世界を大きな船にたとえるならば、今、船底にいくつもの穴が開いています。そして、それらの穴から水が入ってきています。甲板の上にいる人間が、この状況を知ろうとせず ― あるいは知っているにもかかわらず ― 何もしなければ、船はいつか沈むでしょう。為すべきことは、上層階の一等船室に逃げ込むことではなく、船底にいって穴を塞ぐことです。未来の人にそれを託すのではなく、今を生きる私たちが問題に立ち向かわなくてはなりません。

今後も、SSIは、持続可能な共生社会の構築に貢献するため、国内外の様々な立場の人と連携を広めつつ、「船底に向かう仲間」を増やしながら、新しい時代を迎える希望をもって息長く活動を続けてまいります。2019年は、新たなプロジェクトを立ち上げ、サロンの内容もさらに充実させていく予定です。SSIの仲間になってくださる方々の積極的な参加を心からお待ちしています。